

平成30年度 武蔵野市民科カリキュラム作成委員会（第1回）

■日時：平成30年5月24日（木）午後3時～4時45分

■場所：市役所411会議室

次 第

1 開会

2 委嘱状交付

3 委員自己紹介

4 議事

（1）検討スケジュール案について

（2）武蔵野市民科のモデルカリキュラム作成に関する課題について
（事例作成を通して出てきた課題を検討）

（3）今後検討すべき課題について

5 事務連絡

6 閉会

平成30年度 武蔵野市民科カリキュラム作成委員会委員名簿

分野	委員名	所属
学識経験者(1)	有村 久春	東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科教授
武蔵野市立小中学校長会を代表する者(1)	宮崎 倉太郎	武蔵野市立境南小学校長
武蔵野市立小中学校副校長会を代表する者(1)	清水 大史	武蔵野市立第五中学校副校長
武蔵野市立の小学校及び中学校の教員(3)	落合 大輔	武蔵野市立第一小学校主幹教諭
	藤間 研吾	武蔵野市立第三小学校主幹教諭
	藤井 恵嗣	武蔵野市立第四中学校主任教諭
保護者を代表する者(1)	井口 大也	武蔵野市立第四中学校
地域を代表する者(1)	高木 須磨子	青少年問題協議会 本宿地区前委員長
行政(3)	福島 文昭	武蔵野市教育部長
	秋山 美栄子	教育部指導課長
	小澤 泰斗	教育部統括指導主事

特設教科 武蔵野市民科カリキュラム作成委員会(平成29年度)
1年目の目標<武蔵野市民科の方向性の確定>

	日程	場所	検討内容
第1回	10月12日(木)15:00~16:45	武蔵野市役所 教育委員会室	・特設教科 武蔵野市民科の必要性について
第2回	11月14日(火)15:00~16:45		・特設教科 武蔵野市民科の必要性について ・特設教科 武蔵野市民科の目標と育みたい資質・能力について
第3回	12月27日(水)10:00~12:00		・特設教科 武蔵野市民科の目標と育みたい資質・能力について ・小中連携教育研究協力校の報告について
第4回	2月20日(火)15:00~16:45	武蔵野市役所 301会議室	・市民科の学習内容と指導上の留意点 ・小中連携教育研究協力校の報告について
第5回	3月14日(水)15:00~16:45	武蔵野市役所 教育委員会室	・市民科の学習内容と指導上の留意点 ・次年度の計画検討

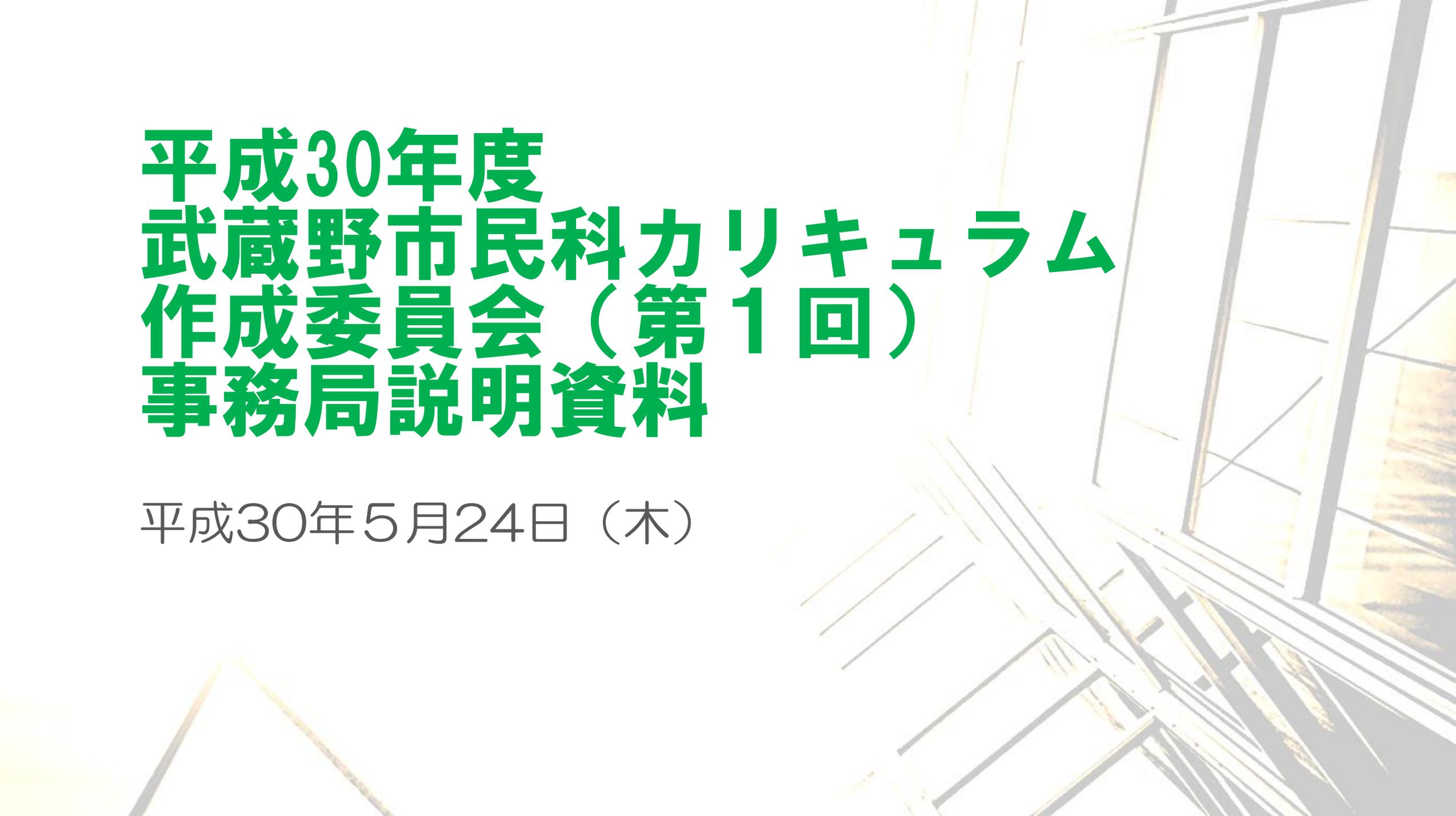
武蔵野市民科カリキュラム作成委員会(平成30年度予定)
2年目の目標<モデルカリキュラムの確定>

	日程	場所	検討内容
第1回	5月24日(木) 15:00~16:45	武蔵野市役所 411会議室	・武蔵野市民科のモデルカリキュラム作成に関する課題について(事例作成を通して出てきた課題を検討) ・今後検討すべき課題について
第2回	7月5日(木) 13:45~14:30(授業視察) 14:45~16:30(会議)	武蔵野市立 境南小学校	・小中連携教育研究協力校による授業提案 ・モデルカリキュラムの検討
第3回	9月11日(火) 13:30~14:20(授業視察) 14:45~16:30(会議)	武蔵野市立 第五中学校	・小中連携教育研究協力校による授業提案 ・モデルカリキュラムの検討
第4回	10月22日(月) 15:00~16:45	武蔵野市役所 412会議室	・モデルカリキュラム作成から見えてきた課題についての検討 (目標、育成を目指す資質・能力、評価方法、実施学年など)
第5回	12月26日(水) 15:00~16:45	武蔵野市役所 教育委員会室	・武蔵野市民科のモデルカリキュラムの完成

備考 検討の進捗状況によっては追加で一度実施する。
追加する場合(11月1日(木)15:00教育委員会室)

小中連携教育研究協力校に依頼した内容

- ①市民科カリキュラム作成委員会(1年次)の内容を踏まえた上での実践事例の蓄積
対象学年…小5~中1 ※市民科の目標に照らし、他学年の事例が加わることも可)
- ②実践を通じた課題の抽出・分析
例…カリキュラム作成委員会で示している市民科の目標、育成を目指す資質・能力や市民科の学習テーマの妥当性
教科横断的な学習の有効性
単元計画作成上の課題(目標の達成や資質・能力育成のため必要な授業時数はどの程度か、どう評価をしていくか)
- ③実践を通じた成果の報告
児童・生徒の変容(単元開始前と後の変化、学習を通じたエピソード、数値的な変容)
関係機関や地域等との関わり
- ④11月4日(日)教育フォーラムでの報告と、教育フォーラムの日程付近の学校公開日等で市民向けに授業公開



平成30年度
武蔵野市民科カリキュラム
作成委員会（第1回）
事務局説明資料

平成30年5月24日（木）

武蔵野市民科の必要性

複雑で予測困難な時代

グローバル化、社会構造の変化、生産人口の減少、地域のつながりの希薄化…など

武蔵野市のよさ

地域の高い教育力、高い市民意識、市政への市民参加…など

子どもの実態と目指す姿

地域・社会とのつながりに気づき、子どもたちの社会参画意識を更に醸成

「市民性を育む教育」を武蔵野市立小・中各学校の
カリキュラム・マネジメントの中核へ

「武蔵野市民科」

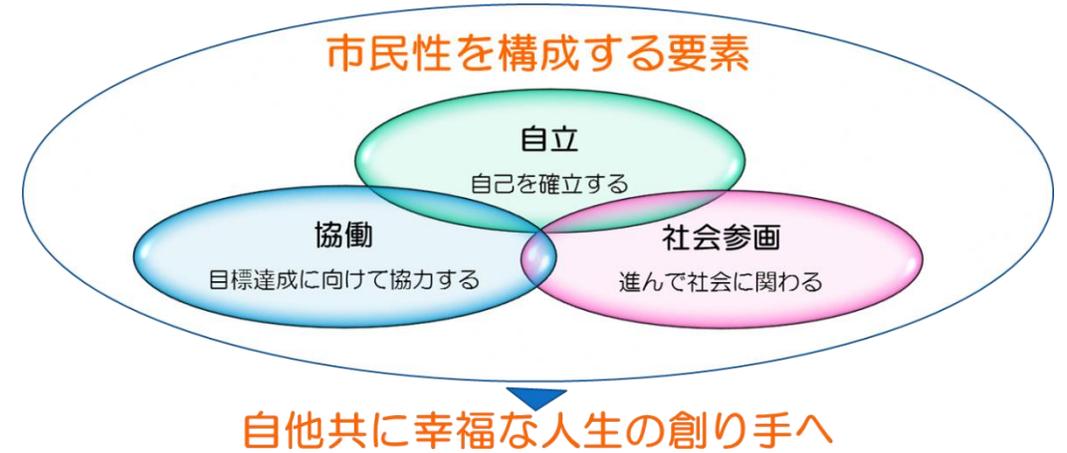
学校ごとの特色ある
市民科の取組を発信

市民科を通して保護者の
地域参画も促す

武蔵野市民科の目標及び育みたい資質・能力

①武蔵野市民科の目標

武蔵野市民として、自己・学校・地域・社会の中から課題などを見つけ、解決しようとする取り組みをとおして、自他共に幸福な人生の創り手となるために必要な「自立」「協働」「社会参画」に関する資質・能力を育てる。



②武蔵野市民科で育みたい資質・能力～

	自立 (自己を確立する)	協働 (目標達成に向けて協力する)	社会参画 (進んで社会に関わる)
主に「生きて働く知識・技能」の習得に関する項目	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、自己管理能力 	<ul style="list-style-type: none"> 他者理解、人間関係形成能力 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や社会的課題などへの理解
主に「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する項目	<ul style="list-style-type: none"> 情報活用能力 クリティカル・シンキング (批判的思考) 	<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成に向け、他者と協力する力 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
主に「学びに向かう力や人間性等」の涵養に関する項目	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識、責任感 自尊感情 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活を協力して築こうとする態度 自己有用感 	<ul style="list-style-type: none"> 公共心や、社会連帯の自覚

2. 本日の議題①

武蔵野市民科のモデルカリキュラム作成に 関する課題について (事例作成を通して出てきた課題を検討)

～作成事例～

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 第一小学校 | 5年「防災について考えよう」(防災・安全教育) |
| 第三小学校 | 5年「くらしと環境『CO2削減アクション月間』」(環境教育) |
| | 5年「職業体験学習」(キャリア教育) |
| | 6年「共に生きる」(福祉・ボランティア) |
| 境南小学校 | 6年「未来に向けて」(キャリア教育) |
| 第四中学校 | 「武蔵野ルネサンス」(地域ごとのまちづくり推進) |

【議論①】 委員が武蔵野市民科の単元計画を作成する中で出てきた課題について、どのような対応案が考えられるか。また、単元計画を作成するにあたって、その他にどのような課題が考えられるか。

2. 本日の議題②今後検討すべき課題について

○今後検討すべき課題、→課題への対応（案）

①市民性を高める教育の取扱い

→これまで通り全学年で実践していく。そのうち、小学校5年生から中学校3年までは年間1回「武蔵野市民科」として単元を組み、実践する。

②武蔵野市民科としての目標、資質・能力、取り扱うテーマ、実施学年の確定

→それぞれの学年でどのような力を育てていくかをより明確にした上で実施する学年を決定する。そのためには、心身の発達段階、市民参加の系統性、総合的な学習の時間の系統性、他自治体等での実践も参考にしておく必要がある。

③武蔵野市民科の中心教科について

→単元計画作成する際には、総合的な学習の時間を中心とする。その際、「キャリア教育、福祉・ボランティア等」学習テーマの中からひとつを選び、単元計画を作成する。また、学習テーマと関連する特別な教科道徳、特別活動、各教科を配列し、教科横断的な単元計画を作成する。

④評価について

→中心教科における評価を基本とする。すなわち、総合的な学習の時間における評価を基本とする。保護者には個人の取組状況とその成果を通知表の総合的な学習の時間の所見で報告する。ただし、各教科や特別の教科道徳等において大きな変容が見られる場合は、その限りではない。

⑤学校と教育委員会との連携（書類、委員会等）

→実施にあたっては計画的、系統的な実践を行うことができるよう、別紙の単元計画を作成し、毎年5月の教育課程関連資料提出とあわせて市教育委員会に提出する。

→全校における武蔵野市民科の確実な実施、小中連携した実践の推進のため、当面の間、小中学校武蔵野市民科カリキュラム検討委員会を年間2回実施し、各校の計画及び、実践による成果と課題を共有していく。

⑥上記の取扱い以外に今後、検討すべき内容

○実践事例の収集と教育フォーラムでの小中連携教育研究協力校の報告。

○各学校が実施していくための手引の作成。

○実践していくにあたり、各校への周知と理解（校長会、副校長会、教務担当者会等への報告、年間計画作成の依頼（来年1年かけて作成））。

○武蔵野市民科実施に向けた、来年度以降の中・長期的なスケジュールの作成。

○保護者への広報。「教育むさしの」で周知するほか、周知プリントの作成（開始だけでなく、取組事例も紹介していく）。

【議論②】上記以外に、武蔵野市民科を実施する上でどのような課題が考えられるか。

1 単元名 「未来に向けて」（30時間）

関連テーマ キャリア教育

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(自立) 自己理解・自己管理能力
	(協働) 他者理解・人間関係形成能力
	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報活用能力
	(自立) クリティカル・シンキング
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(自立) 自尊感情
	(社会参画) 公共心や社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	職業人との対話から様々な職業への理解や職業人の思いに触れる。(自立・社会参画) 自分や友達の個性について、将来の職業に活かす観点から改めて見直し理解する。(自立・協働)
○思考力・判断力・表現力等の育成	GTとのかかわりや図書・ネット資料等の多様な情報から、必要なものを取捨選択し、活用する。(自立) 職業について考える中で、自分の生活についての認識を新たにする。(自立)
○学びに向かう力・人間性等の涵養	職業や職業人について自分事として考えることを通して、将来への希望をもつ。(自立) 社会は、様々な人の思いや努力・協力で成立していることに気付く(社会参画)

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
学年全員で職業人の話を聞くことを通して、職業や職業人に関心をもち、本単元の共通体験とする。	2	女性記者として初めて南極越冬隊に同行するとともに、北極や山岳氷河で地球環境を取材してきた新聞記者をGTとして招き、新聞記者になった動機や仕事の魅力や苦勞など、職業人としての話を聞く。	朝日新聞社 社会部専門記者 中山由美さん
自分のなりたい職業について調べる。	12	将来なりたい職業について考え、その仕事の内容や魅力、その仕事に就くために必要な事柄等を調べ、まとめる。	保護者や地域協力者
ゲストティーチャーの話を聞こう	6	保護者から、仕事についてGTとして話をしてくれる方を募る。児童の興味・関心に基づいたグループごとに、じっくりとGTの話の聞いたり質問をしたりする(2回)。その後、個々の情報を全体で共有するとともに、自分のなりたい職業を改めて考え、修正・肉付けを行う。	保護者GT
「『仕事をする』とはどういうことか、考えよう」	2	自分で調べたことやGTとのかかわりを通して、改めて「仕事をする」と言うことのイメージを交流し、一人一人そのイメージが違っていても、仕事について真剣に考え自分の生き方につなげることを確認する。	各自付箋に記入しKJ法の手法で班ごとに整理する
「自分の『未来予想図』を作ろう」	5	学習のまとめとして、自分を客観的に見たときの長所や特徴、将来なりたい職業やそのための努力、どんな人になりたいのか等々、小学校卒業後の自分の姿を思い浮かべながら「未来予想図」としてまとめ、交流する。	例)「〇〇(自分)の取扱説明書」

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
特別の教科道徳【A-個性の伸長】	2	将来の職業を考えることを視点として、互いに良さや特徴、向いていると思う職業等について考え、交流する。
特別活動【望ましい勤労観・職業感の形成】(中学?)d	1	仕事についての考えや、将来の希望等についてまとめた物を活用しながら、身近な人に発表し、感想をもらう。

合計時数 30 時間

6 備考

「GT」は、ゲストティーチャー「ゲストティーチャーの話を聞こう」では、保護者会等で趣旨を説明して依頼する。保護者だけで不足の場合は、地域コーディネーターや商店会等を通して依頼する。教員の知り合いにお願いすることもできる。いずれも、活動の趣旨を十分に説明し、活動の流れや時間配分を理解してもらっておくことが大切。

1 単元名 防災について考えよう

学習テーマ 防災・安全教育

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(自立) 自己理解・自己管理能力
○思考力・判断力・表現力等の育成	(社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(社会参画) 公共心や社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	「3.11を忘れない」「東京防災」などの資料から災害や防災の現状を知るとともに、武蔵野市の取組や防災に携わる人々の努力や工夫に気付く。 救命講習を通し、応急処置の仕方が分かり、できるようにする。
○思考力・判断力・表現力等の育成	調べ学習を通して、災害から身を守る方法や地域・身近な人に対して何ができるかを考え、話し合い、まとめたことを発信する学習を通して、相手や目的に適した表現方法を考えて発信する力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	市役所や消防署の方の話を聞いたり、地域の方の思いを踏まえて自分の感じたことをまとめたりする学習を通して、自分にできることやよさに気付き、それを生かしながら地域社会に進んで関わろうとする態度を育てる。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
自然災害についての学習課題をもつ	1	避難訓練や災害の経験、災害に応じた安全対策について学習したことを振り返る。 「3.11を忘れない」などを活用し、日本の災害やその被害、特徴について調べる。	
災害に対する備えについて考え、学習計画を立てる	2	身近なところにある備えについて調べ、何を準備したらよいのかを話し合う。 準備しなければならないことについて、「自分」「家族」「地域」の観点で整理し、今後の学習の見直しをもつ。	
身の守り方について知る	4	「3.11を忘れない」や「東京防災(防災ノート)」などを活用し、災害から身を守るために必要なことを調べる。 市役所や消防署の方の話を聞く。 救命講習を受け、応急処置の仕方を調べる。	警防課
自分にできることについて考える	2	災害時や避難所での人々の行動や過ごし方、人々の協力について調べる。 身近な人々や地域に対して自分には何ができるかまとめる。	一小地域防災ネットワーク
防災について学んだことを伝え合い、考えを深める	2	学習を通して学んだこと、考えたことを発表し合う。 地域に対し自分たちにできることを話し合い、まとめる。 まとめたことを発信する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
社会科「自然災害を防ぐ」	5	自然災害の発生状況やその防止の取組に着目し、国土と自然災害との関係や国や地方自治体などが進めている様々な対策について調べ、自然災害の多い国土で生活する国民としての在り方を考える。

合計時数 16 時間

6 備考

--

1 単元名 暮らしと環境「CO2削減アクション月間」
学習テーマ 環境教育

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報活用能力 (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(自立) 規範意識・責任感 (協働) よりよい生活を協力して築こうとする態度 (社会参画) 公共心や社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	武蔵野市の抱える環境問題を理解するとともに、それらの環境問題が地球温暖化につながっていることを理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	武蔵野市の抱える環境問題に関心を持ち、その課題を解決するために自分にできることを考える。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	武蔵野市の環境に興味・関心をもつとともに、武蔵野市の豊かな自然を守るために自分ができることを考えながら生活しようとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
私たちの住んでいるまちについて確認する。地球温暖化について確認する。	1	武蔵野市の特性を確認し、どのような環境問題があるか見通しをもつ。 地球温暖化について確認し、武蔵野市が抱える環境問題も地球温暖化につながっていることを理解する。	
武蔵野市にはどのような環境問題があるかを理解する。	2	実際の施設に見学に行ったり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして武蔵野市が抱える環境問題について理解する。(ごみ、空気の汚れ、水の汚れ、ヒートアイランド現象、騒音、悪臭、土壌汚染、生き物たちの変化(かいぼり)、湧水)	市役所 クリーンセンター 水道局など
自分はどんなことができるか考える。	2	学習して分かった環境問題の中から、自分で取り組みたい課題を決め、その解決のために何ができるか考え、家庭で実施するアクションプランを決定する。	
自分で考えたアクションプランを各家庭で実践する。	0	自分が考えたアクションプランについて、家庭で2週間実践する。その様子や感じたことを学習シートにまとめる。	家庭
振り返りを書いて、その後の生活につなげることができるようにする。	1	友達と、自分が実践してよかったことや環境保全のために大切だと感じたことを交流する。交流したことを基に単元全体を振り返り、今後の生活にどのようにつなげていくかを考え、学習シートに記入する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動

合計時数 6時間

6 備考

--

1 単元名 職業体験学習
学習テーマ キャリア教育

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(協働) 他者理解・人間関係形成能力
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報活用能力 (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(社会参画) 公共心や社会連帯の自覚 (協働) よりよい生活を協力して築こうとする態度

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	学区の吉祥寺駅周辺にはお店が多いことを理解し、商売をする人がどのように接客をするのかを理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	商売をする人の工夫や苦勞を捉え、働くということはどういうことなのかを自分なりに考え、自分のキャリアに生かすことができる。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	働くということに対する興味を高め、それぞれの仕事が多くの人のためになっていることを理解し、そのよさを捉えながら生活しようとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
吉祥寺駅の周辺の様子。 働くということはどういうことかを考える。	1	吉祥寺駅の周辺には商店街やお店が多くあることを理解し、その周辺に住む私たちはどうすればよいか 学習前の時点で、考える「働く」ということとはどういうことかを考え、その後の学習に生かす。	
接客の基本について学び、働く人の工夫や苦勞を捉える。	4	セブンアイホールディングスの研修センターに行き、接客体験(商品ディスプレイ・レジ打ち)や商品製造体験を通して、物を売るということや接客をするということは、どういうことなのかを理解する。	セブンアンドアイホールディングス
職業体験を通して、学んだを生かして、自分が興味をもっている仕事について調べ、まとめる。	2	自分が興味をもっている仕事について調べ、職業体験で学んだ視点(魅力や工夫、苦勞など)からその仕事について、1枚のレポートにまとめる。	
各自が調べてまとめたものを一つにまとめる。	2	各自がまとめたレポートを一冊にまとめ、「三小仕事図鑑」を作成する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動

合計時数 9時間

6 備考

--

1 単元名 共に生きる
学習テーマ 福祉・ボランティア

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解 (協働) 他者理解・人間関係形成能力
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報活用能力 (自立) クリティカル・シンキング (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(協働) よりよい生活を協力して築こうとする態度 (社会参画) 公共心や社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	・吉祥寺周辺には、様々な公共施設や多くの人々が活用する商業施設が多く存在することを確認し、それぞれの施設が、誰もが使いやすいような工夫をしていることについて理解を深める。 ・障害者の生活について知り、バリアフリーについて理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	・それぞれの施設に、すべての人が活用しやすい工夫がされているかについて考える。 ・批判的思考も取り入れながらグループで課題の解決策について話し合い、発表することを通して、武蔵野市をよりよいまちにしようと考え、発信する力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	武蔵野市のよさを知り、より誇れるまちにするために自分にできることや、武蔵野市に住む人だけではなく、武蔵野市を訪れるすべての人が、安心して生活することができるようにするための工夫を考え、実践することを通して、日常的に武蔵野市民として自分ができることを考えて生活しようとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
5人制サッカー（パラリンピック）の選手との交流や、実技体験を通して障害者の生活について理解する。	2	パラリンピアンの特設講演や障害者スポーツの体験教室等を通して、パラリンピック競技等の障害者スポーツへの興味・関心の向上や、障害のある人への理解を深める。障害者が生活する中で苦労していることや不安に感じていることを知り、自分にできることはないかを考えようとする。	東京都教育委員会（「自分にチャレンジ」プロジェクト）
バリアフリーについて理解を深め、その視点から武蔵野市の施設について調べる見通しをもつ。	1	共生のために必要な「バリアフリー」について理解するとともに、学校や周辺施設にはどんな工夫があったかを思い出したり、実際に見学して確かめてみたい施設を考えたりして、学習課題を立て見通しをもつ。	社会
吉祥寺駅の周辺の施設をバリアフリーの視点をもって見学し、各施設の工夫や課題について捉える。	2	吉祥寺駅の周辺にある施設をバリアフリーの視点をもって見学し、誰もが使いやすい施設であるための工夫を見つけたり、改善が必要な点について考えたりする。見学の際に疑問に感じたことは施設の方にインタビューしたり、デジタルカメラでその様子を撮影したりして課題解決につなげる。	コミセン 駅 デパート 図書館など地域の施設
各施設がもつ課題を解決する工夫を考えたり、調べたりする。それぞれの考えについて話し合い、考えをまとめる。	4	どうすれば各施設がもつ課題を解決することができるかを考えたり、調べたりする。調べたことを基に、課題を解決するためのプランを考えグループで話し合い意見をまとめる。批判的思考を生かし、グループでまとめたプランをプレゼンテーションソフトでまとめる。	
グループごとに、自分たちの考えた課題解決のためのプランを発表し合い、よりよい生活を協力して築こうとする。	2	互いに考えた、課題を改善するためのプランを発表する。それぞれの施設で学んだことや、よりよい施設にするために考えたことや調べたことを他のグループの児童や保護者に発表する。共通理解したことを基に、今後の生活について考えを広げる。	保護者

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
国語 「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」	11	互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、計画的に話し合う。よりよいまちをつくるための意見に説得力をもたせるために、資料の活用方法について学び発表に生かす。
特別の教科 道徳 「車いすでの経験から」	1	誰に対しても思いやりの心をもち、今自分ができる精一杯のことをしようとする心情を育てる。単元全体を通して、思いやりの心をもって学習に臨むことができるようにしていく。

合計時数 23 時間

6 備考

- 可能であれば、各グループで考えた内容を施設に提案したい。その際は、最後に発表したものを書面にまとめる時間が必要となる。
- 見学施設に関しては、地域コーディネーターに依頼し、セッティングしていただきたい。

1 単元名 武蔵野ルネサンス
関連テーマ 地域ごとのまちづくり推進

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(協働) 目標の達成に向け、他者と協力する力 (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(協働) よりよい生活を協力して築こうとする態度 (協働) 自己有用感 (社会参画) 公共心や社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	調べ学習や地域のフィールドワークを通じて、地域の現状や課題について理解を深め、地域に潜む問題を発見する力や問題の背景・要因を追究する力を育む。
○思考力・判断力・表現力等の育成	調べたことを基に、地域の活性化について具体策をプレゼンテーションの形式で発表することを通じて、望ましい解決策を考える力や地域の将来像を提案する力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	地域のフィールドワークやプレゼンテーションを通じて、経済・社会的公正や環境の尊重、将来世代への責任などの概念を育む。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
「地域と自分の絆(つながり)」を調べ、理解を深めることで、地域に対する愛着や帰属意識を高める。	2	「ファミリーヒストリーを作ろう」 「自分はなぜこの場所に生まれ住んでいるのか」「両親はなぜこの地を生活地として選んだのか」など、自分と地域とのつながりを関係者のインタビューなどを通して調べ、「武蔵野と私」をテーマに「ファミリーヒストリー」を作る。	
日本の地域社会を取り巻く現状と地域活性化の必要性について理解する。	2	「考える力の土台づくり」 「人口減少・高齢化」「国際化・グローバル化」「環境問題」などの諸課題や地域活性化が必要とされている現状など、日本の地域社会を取り巻く潮流について調べ、まとめる。	
事例を基に地域活性化について考え、理解を深める。	2	「事例から知恵を学ぼう」 島根県海士町を例に町消滅の危機に直面した離島・海士町の苦悩と活性化への方策をどのように人々が共有していったかを理解する。	
フィールドワークを中心に地域活性化に向けた具体策をグループで考える。	6	「身近な地域で地域力を考えてみよう」 「自分の地域では何が課題となっているのか」について、生徒が暮らす地域に点在する商店街やオフィスなどでフィールドワークを行い、地域活性化のための具体策についてグループで考える。	近隣店舗等
地域活性化につながる案をプレゼンテーション形式で発信する。	3	「地域活性化の案を発信しよう」 グループごとに考えた具体策をプレゼンテーションの形式で発表し、商店街や市役所の方にも参加していただいて、各グループが提言した案を評価してもらう。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
社会(地理的分野) 身近な地域の調査	6	身近な地域に関するテーマの設定、調査方法(野外観察、聞き取り調査)、地形図などの地図や写真の活用、本や統計資料の活用、調査結果のまとめと発表

合計時数 21 時間

6 備考

『社会参画の授業づくりー持続可能な社会にむけてー』(泉貴久編、古今書院、2012年)